

長期ステロイド使用後の全身症状を経て通院を終了した成人アトピーの経過 (74 歳 男性)

症例 ID：001-70-NH | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

30 歳頃から背部の一部にかゆみがあり、55 歳頃から長期に皮膚科治療を受けました。入院後も約 15 年間、週 1 回の通院と外用薬の使用を続けました。症状範囲が拡大したため、1993 年 8 月に松本医院を受診されました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	長期にステロイド外用薬を使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	少なくとも約 15 年間です。
中止時期	1993 年 8 月の松本医院受診時です。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
30 歳頃	発症	背部の一部にかゆみが出ました。
55 歳頃～	長期治療	入院後、約 15 年間にわたり外用治療を続けました。
1993 年 8 月	治療開始	松本医院を受診し、煎じ薬と外用薬を開始しました。
開始約 2 か月	強いリバウンド	手、顔、首が赤くなり、落屑と黄色い浸出液が出ました。
約 1 か月間	ピーク	夜間に眠れず、皮膚を掻き続ける状態となりました。
1994 年 1 月頃	変化	強い落屑が峠を越えました。
1995 年 6 月頃	回復傾向	かゆみが軽減し、眉毛と頭髮も戻り始めました。
1995 年 12 月～1996 年 4 月	白内障治療	両眼の白内障手術を受けました。
1996 年 6 月頃	経過後	皮膚症状が落ち着き、通院を終了しました。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始約 2 か月後から約 1 か月間、顔・首・手の赤み、落屑、浸出液が強く、夜間に眠れなかった時期です。

5. 困りごと

- 全身の皮膚症状により他人と接することを避ける時期がありました。
- 夜間の強いかゆみと浸出液のため睡眠が大きく妨げられました。
- 白内障を発症し、両眼の手術を受けました。

6. 経過のまとめ

強いリバウンドと白内障治療を経て、1995 年頃からかゆみと皮膚症状が軽減しました。
1996 年 6 月頃には症状のために通院する必要がなくなりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。